EDOGAWA
SOGO JINSEI DAIGAKU

江戸川総合人生大学

入学案内2022

やってみたいが　カタチになる。

江戸川区は、「ともに生きるまち」を目指して
SDGsに取り組んでいます。

「江戸川総合人生大学」って？

「江戸川総合人生大学って?」と思っているみなさまへ

この度は江戸川総合人生大学入学案内2022を手に取っていただきまして誠にありがとうございます。

「江戸川総合人生大学」とは、"地域の課題を学び、学習成果を地域で実践したい"という方を応援するため、2004年に江戸川区が設立した大学です。
※学校教育法で定める正規の大学ではありません。

人生大学で学ぶために学歴や年齢は関係ありません。それぞれの職歴や人生経験、これまで培った知識などを持った多種多様な方が同じクラスで学び・意見を出し合い、それぞれの生きがいや仲間を見つけていく。そんな人生大学での出会いは小学校や中学校などでは体験できない醍醐味の一つとも言えます。

自分と異なる立場の方からの話はとても勉強になります。人生大学での学びはそれぞれの関わり方で成り立っており、それが自分に合ったカタチとなって地域貢献へとつながっていきます。

この入学案内ではほんの一部ですが、人生大学の学びについて紹介しています。ぜひこの機会にご自身の「やってみたい!」をカタチにするため、人生大学で一緒に学んでみませんか?

大学の基本理念（建学の精神）

「共育」「協働」の社会づくり

総合人生大学は、区民が地域の課題を発見・認識し、その解決に向けて互いに知恵を出し合い、社会貢献へとつなげられる学びのシステムをつくり、こうした住民に支えられる「共育」「協働」の社会をめざします。

「ボランティア立区」の推進

総合人生大学での学びの中心は実学です。ひとりでも多くの方が、学びの成果を地域に活かしていくことで、区民の活動に支えられる「ボランティア立区」の実現につなげていきます。

「地域文化」の創造と継承

総合人生大学は、江戸川区固有の産業、歴史、自然等の学びを通して、地域を理解し、地域の新しい文化を創造するとともに、その魅力や誇りを次代に継承していくことをめざします。

総合人生大学の歴史

2002年	7月	『江戸川区長期計画　えどがわ新世紀デザイン』に基づく『江戸川区基本計画』の中で「江戸川総合人生大学（仮称）」を提唱
2003年	1月	江戸川総合人生大学構想検討会 発足
	10月	江戸川総合人生大学設立準備委員会 発足
2004年	7月	設立準備委員会が「江戸川総合人生大学構想報告書」を江戸川区に提出
	8月	第1期生入学募集開始
	10月	江戸川総合人生大学 開学
2005年	8月	大学ホームページ 開設
	9月	PCサポートの会発足
2006年	9月	第1回江戸川総合人生大学祭 開催
2007年	4月	情報紙 ひと・あい・えどがわ 創刊
2008年	4月	江戸川総合人生大学同窓会 設立
	7月	しのざき文化プラザへキャンパスを移転
2009年	4月	江戸川総合人生大学文庫 開設
2014年	10月	開学10周年記念式典 開催
2018年	11月	地域活動グループ紹介冊子「ゆいまーる」創刊
2019年	5月	企画展示「私のまち、私たちの大学。」開催

設立準備委員会

第1回江戸川総合人生大学祭

開学10周年記念式典

人生大学の学びから見出す「意識づくり」と「生きがいづくり」

みなさん、最近SDGsという言葉をよく目や耳にしませんか。

これはSustainable Development Goalsの略で「持続可能な開発目標」という国連が定めた目標です。持続可能な開発とは「将来の世代の発展欲求を満たしつつ、現在の世代の発展欲求を満足させるような開発」という意味です。簡単に言えば「子や孫がかわいいので我々は我慢しよう」という事でもなく、また「子や孫なんて関係ない、我々だけが発展すればよいのだ」という考えでもありません。「私たちが発展しながら、次の世代も発展できるように配慮する」という事です。ここに示されている17の目標は地球市民として、また将来世代への責任として、私たちは何を考え、そして何をすべきかの案内です。

江戸川区は、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて、SDGｓに積極的に取り組んでいます。江戸川総合人生大学でも、従来の授業内容に新たにSDGsの視点を加えたカリキュラムを用意しています。私もSDGsの全体像、個々の目標そして区民として私たちは何をしたらよいのかについての講義を担当します。私の願いはSDGs対応で江戸川区が日本をリードする自治体になることです。

しかし日本をリードするためには自治体だけの力では成り立ちません。区民一人ひとりがそれぞれの目線でSDGsを意識し、行動していくことが重要です。そのための手がかりとして江戸川総合人生大学で自分には何ができるかを学習の中で見出し、地域のリーダーとして活躍していただければと思います。

また江戸川総合人生大学での学びは皆さんの生きがいづくりにも大いに役立ちます。学習の中で自分自身のやりたい事や一緒に活動する仲間を見つけ、それぞれに合った生きがいを探してみませんか？

皆さんと一緒に学べることを楽しみにしております。

学長
北野　大

＜プロフィール＞
東京都生まれ。明治大学工学部を卒業。東京都立大学大学院工学研究科で博士課程を修了し、分析化学で博士号を取得。淑徳短期大学教授、淑徳大学教授、明治大学、同大学院教授を歴任。2004年から江戸川総合人生大学学長、2017年から秋草学園短期大学学長、2019年から明治大学校友会会長に就任。工学博士。

授業　金曜日 10時00分～12時00分

地域デザイン学部
江戸川まちづくり学科

江戸川区を誰もが暮らしやすく、安心して住み続けられるまちにするために、自分たちにできる取り組みについて考えていく学科です。

学びのポイント（1年次）

POINT 01

まちを見る多様な視点を学び、まちの魅力や課題を発見する

「発見する」方法を学ぶ

まちづくりでは、現場の状況を調査し把握するフィールドワークがとても大切です。このため、いろいろな地域に出向き、多様な視点から江戸川区について勉強します。また、単に環境を見るだけでなく、地域で活躍している方々の取り組みも見聞します。これらの実感の中からまちの魅力や課題を発見します。

POINT 02

アイデアを出し合い、同じ目的に向かって力を合わせていく

「協働する」方法を学ぶ

まちづくり活動は多くの場合一人ではできません。協力して動くことが必要で、これを縦型の組織ではなく、横のつながりの中でどのように行うかグループ活動を通じて経験から学びます。

POINT 03

自分の思いを整理して、伝え、理解してもらう

「伝える」方法を学ぶ

まちづくり活動では、地域に住む多くの人たちに共感してもらうことが重要です。このためには思いを伝える必要があり、授業の中の様々な発表機会で、ノウハウを学びます。

学科長
佐谷 和江（さたに かずえ）
まちづくりコンサルタント
㈱計画技術研究所 代表取締役

専任講師（1年次担当）
竹迫 和代（たかば かずよ）
ファシリテーター
参画はぐくみ工房 代表

江戸川区を誰もが暮らしやすく、安心して住み続けられるまちにするために、2年間かけて「自分に何ができるか?」を考えていく学科です。防災、交通、住まい、みどりや水辺、歴史・文化、景観、ご近所づきあいなど、いろいろな視点から江戸川区を再発見していきます。また、授業はアクティブ・ラーニングと呼ばれる能動的な学習が中心で、課題研究や討論、発表などを通じて楽しく実践的に学んでいきます。

江戸川まちづくり学科の主な授業（1年次）

入　学

10月

ボランティア・市民活動の現場訪問

地元、江戸川区について勉強する時間です。学生の皆さんに地域に出てもらい、地域で活躍している方々と意見交換等の取り組みを通して、自分が市民活動のテーマとして取り組んでみたいと思う「江戸川区の魅力や課題」を探っていきます。

12月

行政が進めるまちづくりから学ぶ

行政が進める安全で誰もが住み続けられる持続可能な都市づくりの学びを通じて、今後の自らが取り組みたい課題を探るきっかけをつかみます。

1月

聴く・話す・表現するのスキルアップ

5コマの授業を使い、学生同士が互いの主張を認め合いながら学び合うために必要な考え方、具体的なスキル「コミュニケーションの基本」「ラベルワーク」「ファシリテーショングラフィック」について実践を通して学びます。また、「篠崎駅周辺のまちを知る・見る」をテーマに篠崎駅周辺をグループでまちあるきし、普段とは違う見方でまちを歩くことの面白さを体感します。

4月

「地域の課題」フィールドワーク

学生各自が、江戸川区のまちについて「知りたいと思っていること」「気になっていること」あるいは「こんなことできたらいいなと思っている地域貢献のイメージ」等を個人で調べ発表する、1年次のまとめ作業です。

6月

「地域の課題」発表会

学生各自が自分の住む地域や江戸川区全体に対して「気になっていること」「関心のあること」について独自に調べたことや考えたことを発表・ディスカッションします。

2年目の学習

最終年度にあたることを意識し、卒業後の社会貢献活動の展開に結びつく「実践的な学び」を行います。特に「社会貢献活動の企画力の向上」「区と協働のまちづくり」「組織づくりやネットワークづくり」に重点を置いたプログラムです。最終的には、卒業後の社会貢献活動につながる「卒業研究」を実施し、発表します。

教えて先輩！学びのイメージ

定年を迎え生活の基盤が勤務地から居住地に変わり、自分が江戸川区について何も知らないことに気付いて、以前から関心のあった人生大学に入学しました。江戸川まちづくり学科では区内の様々な場所に出掛ける授業がありますが、初めて訪問する場所も多く、良い経験ができました。また、共通基礎科目では防災や健康のことなどを幅広く学ぶことができます。様々な知識が身に付くのが人生大学の授業の魅力だと思います。入学したことで、世代を超えた多くの人と知り合うこともできました。17期生の仲間と穂高荘（安曇野市）への宿泊研修に参加したことは良い思い出になっています。

江戸川まちづくり学科 第17期生
市地 恒実さん

授業　金曜日 14時00分～16時00分

地域デザイン学部
国際コミュニティ学科

地域における多文化社会や国際コミュニティ構築の可能性を考察します。
また、私たちの文化だけでなく、異なる文化に対しても理解を深め、多文化化する地域社会における、多様な言語・文化背景の人々との共生・共育、対話や協働のあり方についてSDGsの観点も踏まえて考えていきます。

学びのポイント（1年次）

POINT 01

自らの言語や文化をあらためて見つめなおす

日本人とその言語、文化の成り立ちを学ぶ

世界における日本語・日本文化の位置付けを概観します。また、共生社会における日本語の位置付けの多様性について確認し、その「言語」「文化」的特徴や変遷（歴史）を振り返り、自分自身の「言語史」についても考察します。また、その歴史の蓄積を踏まえながら、将来のグローバリゼーションのあり方も視野に、SDGsの観点から、江戸川区内の多文化理解の重要性と共生社会構築の可能性を考えます。

POINT 02

在住外国人に寄り添う

在住外国人の課題を学ぶ

多様性やSDGsの観点から、在住外国人を取り巻く課題について考えます。また、複言語・複文化社会の先にある終活や介護等の課題について触れながら、対応方策についても展望します。

POINT 03

江戸川区をより暮らしやすいまちに

多文化共生を考える

江戸川区をはじめ日本に移住してきた人々の現状を把握し、SDGsの観点から国籍や言葉、文化の違いなどの多様性（ダイバーシティ）を認め、尊重しあう「多文化共生社会」の必要性を学びます。

学科長
野山 広（のやま ひろし）
（一社）多文化社会専門職機構 前代表理事
国立国語研究所 研究系 准教授

江戸川区をより暮らしやすいまちにするために、自分にできる取り組みについて考えていきます。特に1年次は「改めて自分自身を知る」「江戸川区（地域）を知る」「共に学ぶ仲間が居ることの意味（重要性）を知る」ということを中心に授業を展開します。

主な講師

・インディラ・バット（江戸川インド人会 副会長）
・ジョージ・W・ギッシュ（青山学院大学 名誉教授）
・田辺 邦子（学校法人深堀学園外語ビジネス専門学校 非常勤講師）
・新居 みどり（特定非営利活動法人国際活動市民中心 コーディネーター）　ほか

国際コミュニティ学科の主な授業（1年次）

入　学

10月

日本の言語・文化史と自分自身の言語史

世界における日本語・日本文化の位置付けを概観します。また、共生社会における日本語の位置付けの多様性について確認し、その「言語」「文化」的特徴や変遷（歴史）を振り返り、自分自身の「言語史」についても考察します。改めて自身の生いたちを踏まえて次に備えます。

11月

日本文化史における仏教伝来の意味を音楽から感じる

日本文化史における仏教伝来の意味について、音楽という観点から考えます。具体的には、仏教伝来の流れと共に、シルクロードを通して「声明（しょうみょう）」が伝わり、日本音楽の源流となっていることを学び、その演奏を体感します。「声」の重要性について改めて考えます。

12月

多様性（ダイバーシティ）から見た多文化共生社会

多様性の観点やSDGsの観点から、多文化共生社会について考えます。ジェンダー（社会的性別）とエスニシティ、日本社会における多様な人々が学ぶ権利、基礎教育の保障、夜間中学や識字（リテラシー）教育、「読み書き調査」の戦後史などを概観します。
また、江戸川区内にも多く在住する海外出身の方、例えば「江戸川インド人会」というコミュニティを形成しているインドの方から日常生活の違いや教育に関する課題などについて話を伺いつつ、共生・共育のあり方について考えます。

3月

形成的フィールドワークの実践

形成的フィールドワークの意義を知り、実践することで多文化共生についての課題を発見し、その課題をワークショップで整理していきます。

6月

学びの発表／まとめ

入学してからこれまでの感想やフィールドワークの成果を発表します。
また、1年間の成果を振り返るとともに、2年目の課題研究や関係者との連携・協働に向けてのワークショップを行います。

2年目の学習

1年目のフィールドワークで対話の意味を確認するとともに、協働して行うプロジェクトチームへとさらに発展させ、各自が発見した課題についてチームで研究し、その成果を発表します。さらに、学びの成果について社会活動体験を通じて実証し、今後の自らの実践活動にどう結びつけるか、試行錯誤しながら（SDGsの観点から）、国際コミュニティ（共生社会）をどのように培っていくか、知恵を出し合い、考えていきます。

教えて先輩！学びのイメージ

公開講座に参加し、「何らかの形で社会にご恩返しをしたい」「社会と繋がっていたい」という思いを実現できそうだと感じて入学を決めました。講義内容が充実しており毎回とても新鮮で、リカレント教育を満喫しています。クラスメイトは個性豊かな方が多く、授業中は様々な考え方や意見が飛び交っています。年齢や経験の異なる方々との触れあいは、多くの刺激があり楽しいです。
また、授業会場のしのざき文化プラザも大きな魅力です。駅から直結で交通の便が良く、図書館があり、併設されているカフェでは「人大学割」を使うことができます。
人生大学にはたくさんのお勧めポイントがあります。興味をお持ちの方は、あまり構えずに、ぜひ入学してみてください。

国際コミュニティ学科 第17期生
山本 カヨ子さん

授業　火曜日 10時00分～12時00分

人生科学部
子育てささえあい学科

乳幼児から中学生くらいまでの子どもを念頭におき、子育ての意義や課題等について理解を深めるとともに、子どもの豊かな成長をささえる学びをとおして、信頼にあふれた地域づくりを目指します。

学びのポイント（1年次）

POINT 01

子どもは地域との関わりあいの中で成長する

子育てを取り巻く環境を考える

時代の変化とともに子育て環境は変わってきました。そうした変化の背景にあることを考えつつ、現代の子育て環境がもつ好ましい点と改善すべき点を理解し、子育てをより良い方向に促していくための方策や取組みについて様々な視点から考えます。

POINT 02

現代の子どもが抱える諸課題とは

子どもの育ちを考える

子どもの成長にとって親・保護者や友人、また学校や地域はいかなる意味を持つのかについて考えるとともに、引きこもりや発達障害あるいは虐待など、現代の子どもをめぐる様々な課題について専門的な見地から理解を深めます。

POINT 03

子育て支援活動の実際を知り事業などを企画する

ささえる力を培う

地域の人たちが子育てに関わることはどのような意義や課題があるのか考えつつ、子育て支援活動の実態把握やイベントの企画実施をとおして、子育てをささえる活動を実現するための企画力や実践力を培います。

学科長
笹井 宏益（ささい ひろみ）
玉川大学学術研究所
高等教育開発センター 特任教授

子どもを取り巻く環境が大きく変化した現在、子どもの豊かな成長を実現するためには、親・保護者はもちろん、多くの人たちが、子どもに関わり、ささえあうようになることが大切です。この学科では、子育て環境の変化に着目しつつ、現代の子どもや子育てが抱える様々な課題について理解を深めるとともに、子どもの豊かな成長や子育てをささえるための実践力を培います。

主な講師

・友野 清文（昭和女子大学総合研究センター 教授）
・入江 優子（東京学芸大学こどもの学び困難支援センター 准教授）
・蟇田 薫　（認定特定非営利活動法人育て上げネット 執行役員）　ほか

子育てささえあい学科の主な授業（1年次）

入　学

10月

子育てを取り巻く環境を考える

栄養の改善など子どもが健康的に成長するための環境は整ってきた一方で、遊び場や遊ぶ時間の減少、スマホの普及、貧困や格差の拡大など子どもの成長発達に悪影響を及ぼしかねない事象も広がってきています。こうした状況を踏まえ、現代における子育て環境の特徴を理解し、より良い子育てを進めていく上で望まれる環境の創出について学びます。

12月

子どもの育ちについて理解する

乳幼児から中学生くらいまでを念頭におき、子どもが成長していくプロセスを踏まえて「自立」「仲間」「遊び」「食」など子どもの成長と密接な関係がある事象について、いくつかの事例を交えつつ、子どもの育ちにおけるそれらの意義・役割などについて学問的な知見を学びます。

1月

子どもや親子関係をめぐる現代的な課題を理解する

「ひきこもり」や「孤立」「貧困」など現代の子どもは様々な課題を抱えています。また、親子関係をめぐって虐待やネグレクトなど深刻な問題も少なからず生じています。SDGsなど地球規模の課題も含めて現代の子どもや親子関係が抱えている諸課題について、社会的背景などを考察しつつ、それらの解決の方向について考えます。

4月

子育て支援活動の実際を知る

「子育てひろば」や「すくすくスクール」あるいは地域のNPOやボランティアグループなどによる取組みなど、地域では様々な子育て支援活動が展開されています。これらの現状を把握し、その意義や役割、抱えている課題などについて学びます。

6月

子育てをささえるための実践的能力を培う

フィールドワークや大学祭の実施に際して、具体的な活動内容などについて学生同士で検討、企画、共同作業をすることをとおして、子育て支援にかかる活動をより良いものにするための実践的能力を培います。

2年目の学習

1年目に学んだことをもとに、さらに発展的な内容を学んだり、応用的な能力を身に付けたりします。2年目の最後には、入学当初からこれまでに学んだことを振り返り、そこで得られた知見を整理し定着させるための「まとめ」の作業をします。

教えて先輩！学びのイメージ

近所に孫が生まれ、区の子育て施策に興味を持っていたところだったので、思い切って子育てささえあい学科への入学を決めました。
実はそんなに期待しないで入ったのですが、講義を受けてみると、日本の古い子育て観や教育観を覆す、日本の先端を行くような刺激的な授業ばかりで、期待以上でした。そして、子育て世代を応援したいという共通の想いを持った仲間と出会えたことが、何よりの財産です。
今クラスメイトと共に、地域でやりたい活動を話し合っているところです。子育て中の方々の笑顔が、少しでも増えるような活動をしていくという、目的達成のために仲間と学ぶ日々は、楽しくて仕方ありません。
充実した人生を送りたい方は是非人生大学にお越しください。

子育てささえあい学科 第17期生
村上 達志さん

授業　月曜日 14時00分～16時00分

人生科学部
介護・健康学科

誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域全体で取り組むことが求められています。自分の住む地域にどんな問題があるか、それを解決するためにどう活動したらいいかを考えていきます。

学びのポイント（1年次）

POINT 01

超高齢社会を生きる

地域における自分の役割について学ぶ

日本は2007年に超高齢社会に突入しました。今後も高齢化率は高くなると予測されています。この学科では超高齢社会の現状を学び、それを支えるための自治体の取り組みや自分自身の役割は何かについて学んでいきます。
あわせて、今後の人生を豊かに生きていくための介護予防について学びます。

POINT 02

多様化する高齢者問題とは

課題と解決のヒントを探す

超高齢社会の様々な課題、また、新たに発生する課題について学び、それを解決するための具体的なヒントを探していきます。

POINT 03

地域と共に生きる

地域で暮らし続ける

誰もが住み慣れた地域社会で人生の最期まで共に暮らし続けることができるよう、人生大学の学びの中から、自分に何ができるか考えます。

学科長
柏女 霊峰（かしわめ れいほう）
淑徳大学総合福祉学部 教授
淑徳大学大学院 教授

専任講師（2年次担当）
鶴岡 恵子（つるおか けいこ）
特定非営利活動法人
コラボえどがわ 理事長

日本は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。江戸川区においても高齢化率は年々増加傾向にあります。
介護保険制度は超高齢社会を支える公的な制度ですが、それだけではご自身の住む地域は支えきれません。この学科で超高齢社会を乗り切るためのヒントを見つけてみませんか。

介護・健康学科の主な授業（1年次）

入　学

10月

超高齢社会と介護保険制度

超高齢社会が抱える諸問題を学ぶとともに、高齢者がいつまでも元気で生き生きと暮らしていくためには何が必要かを考えます。また、高齢者の健康とは何か、介護保険制度の概要、区の取り組みなどを学びます。

11月

介護予防の重要性

介護保険制度施行後、介護予防の認知度・重要性が明確に高まりつつあります。
ここでは、介護予防に有効な様々な取り組みについて学びます。

1月

地域の課題と解決のヒントを探す

誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域全体で取り組むことが求められています。自分の住む地域にどんな問題があるか、それを解決するためにどう活動したらいいかということを考えていきます。

主なテーマ

■認知症を地域で支える
医療・介護・認知症サポーターなど、地域ぐるみで認知症の方を支える取り組みを学びます。

■老いの住まい・暮らし
特別養護老人ホームや地域密着型サービスなどの現状を学びます。

■家族を支える
介護する家族の置かれている現状と支援について学びます。

■多様化する高齢者問題
在住外国人の高齢者を地域でどのように支えていけるかを考えます。

■地域デビュー
ボランティアの役割、地域活動の数々の実例を学びます。

6月

1年間のまとめ

1年間の学びを振り返るとともに、大学祭での学習成果の発表について意見交換を行います。

2年目の学習

2年次では、1年次の学びを地域に活かしていくために、江戸川区の現状にあてはめて展開していきます。そのために、制度や支援機関および地域で活動するボランティアの状況から江戸川区の特性を把握し、地域住民にとって不足していることはなにか、また必要としていることはなにかを考え、実践に結び付く学習をします。
そして、学びの集大成として卒業研究の発表を行います。

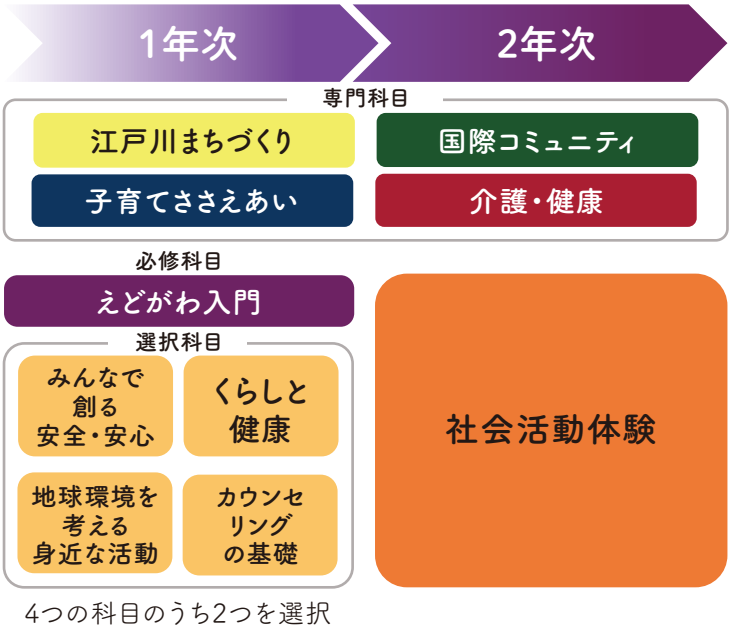
教えて先輩！学びのイメージ

友人がはつらつとボランティア活動をしている姿を見て「いいなあ」と感じ、たずねたところ「人生大学で学んだことを活かして活動している」との話。私も友人のように地域活動をしてみたいと思い、人生大学に入学しました。
介護・健康学科では、超高齢化社会の中で孤立せず、自分らしい生活を送るための社会参加（奉仕活動）のあり方を学んでいます。特に印象に残っているのは、視覚障がいの方のガイドヘルプについて学んだ講義です。アイマスクと白杖を使った実体験は、強く記憶に残りました。授業以外では、人生大学の情報紙を編集・発行する「情報紙編集委員会」に参加しています。学科や学年を超えた人たちと知り合うことができ、楽しく活動しています。

介護・健康学科 第17期生
池田 正子さん

共通基礎科目
社会活動体験

1年次は専門科目（基礎研究）と共通基礎科目（必修・選択）を学び、知識と経験を高めます。2年次は専門科目（課題研究）と社会活動体験を通じて課題認識を深め、実践力を高めます。



4つの科目のうち2つを選択

えどがわ入門

Aコース 2022年10月～翌2月 木曜日14時～16時／Bコース 2022年10月～翌2月 土曜日10時～12時

江戸川区におけるSDGs・まちづくり・環境・教育・子育て・福祉・産業など様々な角度からテーマを取り上げ、江戸川区の関連部署より講師を招き、現状と課題これからの対策について理解を深めていきます。

【講師】北野 大（江戸川総合人生大学 学長）・江戸川区長・区職員 ほか

地球環境を考える身近な活動

2022年11月～翌2月 水曜日 14時～16時

実際に現場に出てわたしたちを取り巻く自然を観察したり、生態系について理解を深めながら地球環境について考えていきます。また、自然エネルギーの仕組みや日々の生活で取組むことのできるエコ活動についても考えていきます。

【講師】北野 大（江戸川総合人生大学 学長）
日本野鳥の会 東京 ほか

みんなで創る安全・安心

2023年3月～6月 月曜日 10時～12時

日々安心して暮らしていくためには？江戸川区の現状や地域に潜む課題について、防犯・防災の視点から学び、安全で安心なまちづくりを創造していきます。

【講師】山本 俊哉（明治大学理工学部 教授）
ほか

くらしと健康

2023年3月～6月 木曜日 14時～16時

身体とこころの健康、日々の暮らしとの関係を学ぶ授業です。基礎編では医師や各専門家を講師に人の身体やこころの健康、食事と栄養の関係、口腔ケアなどを考えます。また、実用編として運動の仕方や救急救命法なども学んでいきます。

【講師】医師・臨床発達心理士・管理栄養士
ほか

カウンセリングの基礎

Aコース 2022年12月～翌3月 水曜日 9時30分～11時30分
Bコース 2023年 4 月～ 6 月 水曜日 9時30分～11時30分

仕事や人間関係、家族関係のこと。人がこうした悩みや問題に自分らしい方法で向き合うことが出来るようになるために寄り添い、手助けをする「カウンセリング」。「自分自身を知る」「傾聴」を中心に、日常の様々な場面で活かせるカウンセリングの技法を実習を通して身につけます。

【講師】諸富 祥彦（明治大学文学部 教授）
青木 美帆（公認心理師／臨床心理士）

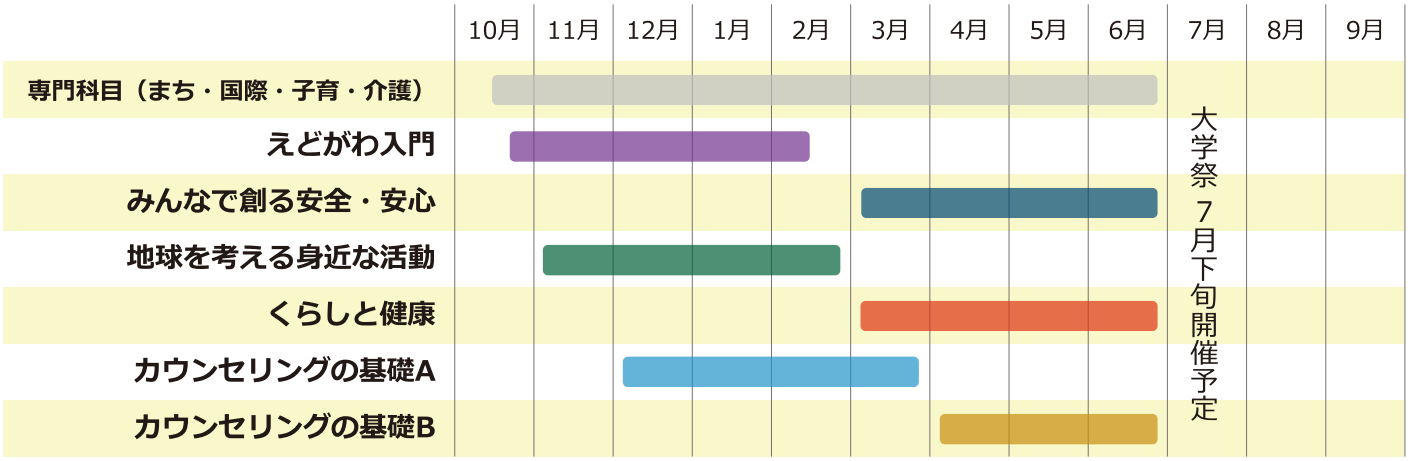
社会活動体験（体験学習プログラム／2年次）

自分自身で地域活動やボランティア活動を企画したり、実際に活動している団体の活動を体験したりします。この科目は人生大学での学習を地域活動と結ぶものとして、ボランティア活動を実際に体験し実践能力を高めたり、現場のニーズを理解するために実施しています。

授業概要

1年次の授業は専門科目・共通基礎科目あわせて年間60回程度となります。
選択する学科や科目、授業の実施時期により異なりますが、多い時で概ね週3～4回通学します。
2年次の授業は専門科目が年間30回のみのため週1回程度の通学となりますが、授業のほかに社会活動体験、課題研究のための自主的な学習やグループ研究などを行います。

年間の授業スケジュール（1年次）



科目別の授業数と単位数

科目にはそれぞれ単位が設定されており、卒業するには24単位の履修が必要となります。

なお、専門科目、必修科目、選択科目の履修希望者が多数になった場合、抽選になることがあります。

科目			1年次		2年次	
			授業数	単位数	授業数	単位数
専門科目		江戸川まちづくり学科	30回	6単位	30回	8単位
		国際コミュニティ学科				
		子育てささえあい学科				
		介護・健康学科				
共通基礎科目	必修	えどがわ入門Aコース（木曜）	12回	2単位	—	—
		えどがわ入門Bコース（土曜）				
	選択	みんなで創る安全・安心	10回	2単位×2科目	—	—
		地球環境を考える身近な活動				
		くらしと健康				
		カウンセリングの基礎				
社会活動体験			—	—	30時間	4単位

充実した
キャンパスライフ

人生大学では、様々な場面で学生が主体となり大学運営をしています。また、充実した学生生活を送っていただくために、多様な授業方法や宿泊研修・特典などもご用意しております。ぜひご活用ください。

学生による大学運営

運営会議

学生が主体となり、学習内容などについての意見交換を行い、大学の運営などに反映しています。

情報紙「ひと　あい　えどがわ」

学生・卒業生の地域活動や人生大学の様子を紹介するため、情報紙を発行しています。人生大学と地域をつなぐ情報紙として、学生自らが編集を行っています。

大学祭

学生が実行委員会を立ち上げ、企画の立案からPR方法、開催までを仲間とともに作り上げる人生大学の一大イベントです。

オンラインを活用した授業

人生大学での授業は基本的に対面授業を実施しておりますが、
ご予定があったり体調がすぐれない、子育てをしていて外出できないなど、諸事情により対面授業が困難な方への対応策として一部オンラインでの授業参加も認めています。
オンライン授業への参加はオンライン会議用ソフト「Zoom」が使用できる環境が必要となります。
Zoomやパソコンの操作が不安な方には、学生サポートグループ「パソコンサポートの会」が講習会・相談会を開いて支援しています。

宿泊研修旅行（11月14日～11月15日）

人生大学に入学すると「同級生になかなか声をかけられない」「どんな人がいるか不安」などの悩みや不安が出てくると思います。そんな悩みや不安を解消し、より一層学生間の親睦を深める事業として宿泊研修旅行を予定しています。行先は江戸川区と友好都市盟約を締結している長野県安曇野市。北アルプスを望む自然豊かな安曇野市を同級生と一緒に楽しく堪能しながら江戸川区および安曇野市を学びます。なお、宿泊先は江戸川区民の別荘「穂高荘」を予定しています。

※旅行費の一部は助成されます
※新型コロナの感染状況によっては実施が変更となる場合もあります。

人大学割

人生大学のキャンパスしのざき文化プラザ内「伝統工芸café アルティザン」での飲食メニューの20％割引きを始め、タワーホール船堀（船堀4-1-1）に併設する飲食店で学割が使えます。なお割引は、各店舗によって異なりますので下記の一覧をご参照ください。
※割引を利用する際は人生大学から発行する「学生証」の提示が必要となります。

人大学割 利用可能施設（店舗）

しのざき文化プラザ	
伝統工芸Café アルティザン	飲食メニュー20％オフ
タワーホール船堀	
船堀シネパル	800円で鑑賞
キャラバンコーヒー	飲食メニュー10％オフ
つきじ植むら	ソフトドリンク1杯サービス
サロン・ド・サロン	ソフトドリンク1杯サービス

卒業後の活動

卒業生の多くは、人生大学での学びを活かしたより良い地域づくりのため、個人またはグループで様々な地域活動団体を立ち上げ、積極的に活動しています。

江戸川総合人生大学同窓会

人生大学での２年間の学びを活かし卒業後も地域貢献に寄与するため、2008年4月に設立されました。地域活動グループ同士の情報交換や学年を超えた親睦・交流のサポートを行っています。

ホームページ

募集概要

募集期間　令和4年7月1日（金）～8月12日（金）

募集学科 4学科のうち1つを選択	**地域デザイン学部**	江戸川まちづくり学科
		国際コミュニティ学科
	人生科学部	子育てささえあい学科
		介護・健康学科
募集人数	各学科25名程度 合計100名	
申込資格	以下の2つの条件に該当される方 ■江戸川区内に在住・在勤・在学の方 ■2年間継続して学ぶことができ、卒業後に学習成果を地域活動やボランティア活動等で実践する意欲のある方 ※年齢制限はありません。 ※外国人の方も可能です。ただし日本語による授業のため、日本語の理解や日本語でのコミュニケーションが可能な方に限ります。	
修学期間	令和4年10月～令和6年9月の2年間	
授業料	年間 3万円　※2年次の授業料は進級決定時に納入していただきます。	
会場	しのざき文化プラザ3階講義室　※外出の講義もあります。	
申込受付期間	令和4年7月1日（金）～8月12日（金）※当日消印有効	
申込方法	本誌の巻末に添付している入学願書に必要事項を記入し、人生大学事務局へ郵送、または持参してください。またホームページ上からの出願も可能です。	
入学者の決定	申し込みが定員を超えた場合は抽選を行います。 抽選の場合、8月下旬に抽選会実施の連絡を対象学科の出願者全員に郵送にて通知いたします。抽選が無い場合は入学決定通知書を郵送で送付いたします。	
入学手続き	入学決定通知書とともに、入学関係書類・授業料納付書を送付いたします。 定められた期間内に、初年度分の年間授業料（3万円）を江戸川区指定の金融機関へ納入してください。入金の確認をもって、入学手続きの完了とします。	
注意事項	・他学科との併願はできません。 ・共通基礎科目や専門科目だけの受講はできません。 ・学校教育法等で定める正規の大学ではありません。	
お問い合わせ 入学願書送付先	江戸川総合人生大学事務局 〒133-0061　江戸川区篠崎町7-20-19 しのざき文化プラザ 【TEL】03-3676-9075　【FAX】03-3676-6545	

令和4年度 江戸川総合人生大学

入　学　願　書

受付番号	ー

※記入しないでください

江戸川総合人生大学 学長　様

江戸川総合人生大学に入学したく出願いたします。　　令和4年　　月　　日

入学希望学科（希望学科に○）		江戸川まちづくり学科		子育てささえあい学科
		国際コミュニティ学科		介護・健康学科
フリガナ			生　年　月　日	
氏名			年　月　日（西暦）	
住所	〒　　ー ※アパート・マンション名、部屋番号もご記入ください。			
連絡先	自宅電話	（　　）　　ー		
	携帯電話	（　　）　　ー		
	E-mail（携帯電話メール）	@		
勤務先（学校）	※江戸川区以外にお住まいの方は、区内勤務先（学校）をご記入ください。 名称： 住所： 電話：（　　）　　ー			
動機	**入学したいと思った動機や目的を400字程度でご記入ください。**			

（→裏面へ続く）

（→表面より）

入学にあたって、大学事務局に伝えておきたい事がありましたらご記入ください。
（身体面などで心配な事など）

事務局記入欄　※記入しないでください

地区コード	受　付
	月　日

申込方法

持参・郵送での出願

STEP1 入学願書を記入

本誌に添付されている「入学願書」に必要事項を記入。

STEP2 入学願書を持参

記入した入学願書をしのざき文化プラザ内の人生大学事務局へ持参してください。不明な点はスタッフへお尋ねください。その場での記入・出願も可能です。

STEP3 入学願書を郵送

人生大学事務局までのご持参が難しい方は郵送での出願も可能です。

※ 郵送代はご負担ください。

WEB（インターネット）出願

STEP1 WEB出願サイトへアクセス

WEB出願専用フォーム

https://www.sougou-jinsei-daigaku.net/contact へアクセス。

出願専用QRコード

ご利用にあたってはメールアドレスが必要となります。スマートフォンからのアクセスも可能です。右上のQRコードからの申し込みも可能です。

STEP2 必要事項を入力し送信

必要事項を入力し、入力内容を確認後に送信ボタンを押して出願完了です。

出願後は？

8月下旬

結果通知書の発送

申込期間終了後、申込みの結果を申込者全員に郵送で通知します。入学者には入学決定通知を送付いたします。

9月中旬

授業料の納付

入学決定通知と同封の「授業料納付書」で期日までに指定金融機関でお支払いください。支払い完了後、入学手続きは終了です。

10月5日（水）

第18期生入学式／入学ガイダンス

日時：2022年10月5日（水）午後2時～

入学式終了後、入学ガイダンスを行います。

※会場などの詳細は、8月下旬頃郵送の入学決定通知に同封されている案内をご確認ください。

よくある質問

Q. 子育てや介護、パートをしている人でも大丈夫ですか？

A. 大丈夫です。ただし、人生大学では1年次に週３～４日通学する場合もあります。対面授業が基本ですが、オンライン授業などの受講が可能な場合もありますので事前にご相談ください。

Q. 在学中に何か資格が取れますか？

A. 就職などに活用できる資格取得カリキュラムはありません。普通救命講習や認知症サポーターなど生活に密着した養成講座は開催しています。

Q. テストはありますか？

A. テストはありません。学んだことを発表していただくことはありますが、内容によって評価されることはありません。

Q. 卒業後は必ずボランティアに参加しなければいけませんか？

A. ボランティアへの参加は個人の判断にお任せしております。学習成果をどう活かすかは様々なカタチがあると思いますので、それぞれのカタチで表現してください。

EDOGAWA
SOGO JINSEI DAIGAKU

もっと詳しく人生大学を知りたい方は！

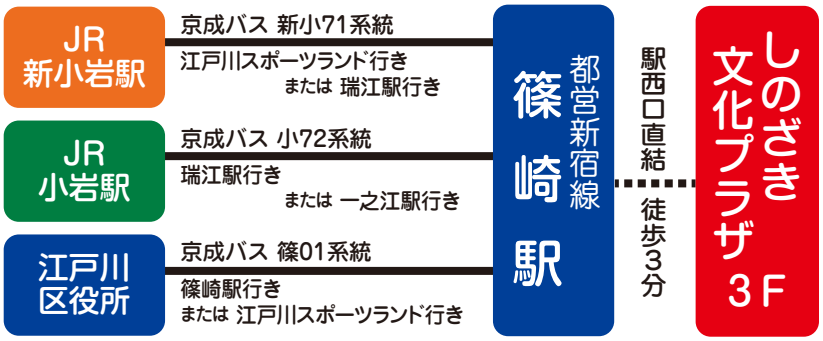
人生大学ホームページ

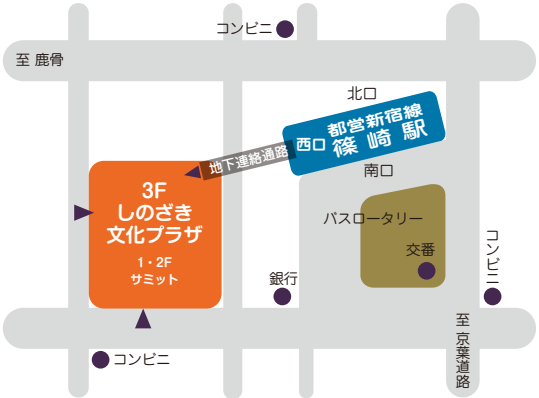
シラバス（授業計画）がご覧いただけます。また、公開講座や大学祭など人生大学の情報や、在校生が作った情報紙、卒業生の活動などをトピックスで掲載しています！

人生大学YouTubeチャンネル

学長による大学紹介や学科長の学科紹介、在校生や卒業生の活動の動画などを随時掲載しています。

アクセス　駅直結！雨に濡れません！





江戸川総合人生大学事務局

〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19 しのざき文化プラザ
【TEL】03-3676-9075　【FAX】03-3676-6545